２０１８年（平成３０年）１０月１８日　木曜日

東奥日報　１１面　掲載

光星 攻守に隙なし

第71回 秋季東北高校野球 第４日

3回一挙5点、後藤完投

花巻東を振り切る

流れ呼ぶ先制弾 8番太山

第71回秋季東北地区高校野球大会は第4日の17日、秋田市のこまちスタジアムで準決勝2試合を行った。県勢の八学光星（第1代表）は、今大会、強豪私立を大逆転劇で撃破してきた花巻東（岩手第2代表）と対戦した。八学光星は0―0で迎えた三回表、8番太山のソロ本塁打で流れをつかむと、さらに1死満塁と攻め立て、4番近藤から3連打で4得点。七回と八回には安打や四球などで1点ずつ加え、花巻東を突き放した。決勝は18日、同スタジアムで盛岡大付（岩手第1代表）と頂点を懸けてぶつかる。（秋村有香、工藤俊介）

▽準決勝（秋田市こまちスタジアム）

八学光星	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
花巻東（岩手）	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3

（八）後藤、太山―崎
（花）西舘、中森―武田、山
▽本塁打 太山（八）
▽三塁打 酒井（花）▽二塁打 下山（八）

【評】八学光星は三回表の8番太山の本塁打から始まり、計12安打を浴びせる猛攻。4番近藤、6番下山はそれぞれ2打点を挙げ勝利に貢献した。投げては主戦後藤が打ち取る粘り強い投球で2試合連続の完投。堅守も光り、五回と六回は花巻東の攻撃を併殺で切り抜け、反撃の芽を摘んだ。

ヒーロー

試合の流れを引き寄せた一発だった。「1本欲しい」という主戦後藤の期待に、女房役の8番太山は応えたかった。三回表、1打席目の2球目、狙い球の直球を見逃さず振り抜くと、「完璧な」感触通り打球は芝生席まで飛んだ。控えめにガッツポーズしながら本塁を踏み、沸き立つベンチに戻った。

自身の本塁打をきっかけにこの回計5得点となったので良かった。気持ち良かった」と喜ぶ。体の軸を意識したスイング練習が強打を生んだ。

秋の県大会1回戦、試合中に打球を受けてけがを負い、復帰したのは今月初め。それでもメンバー入りがかない「監督が期待してくれていると思った」。打撃のほか、捕手としても後藤をリードし、声掛けなどで気持ちを支えた。

念願のセンバツ出場が有力となり、「（東北大会で）1位になって、明治神宮大会で優勝したい」と強く語った。（秋村有香）

「打たせて取る」徹底

○…八学光星の主戦後藤は六回まで無失点の好投。七、八回には得点を許したものの、要所を締める投球で相手打線を9安打3点に封じ込めた。

「強力な左バッターが多い三後藤という花巻東に対し、外角のスライダーで打たせて取ることを徹底。得点圏に走者を背負ったときも、後ろで守る仲間を信じて全力で腕を振り抜いたという。

夏の県大会まではベンチ入りしていたものの、甲子園本番では選手から漏れた後藤。悔しさをバネに練習に励み、新チームでは背番号「1」を託される選手に成長した。

東北の頂点まで、あと一つ。「今まで積み上げた光星の野球で東北一を勝ち取る」。頼れるエースは決意をにじませた。

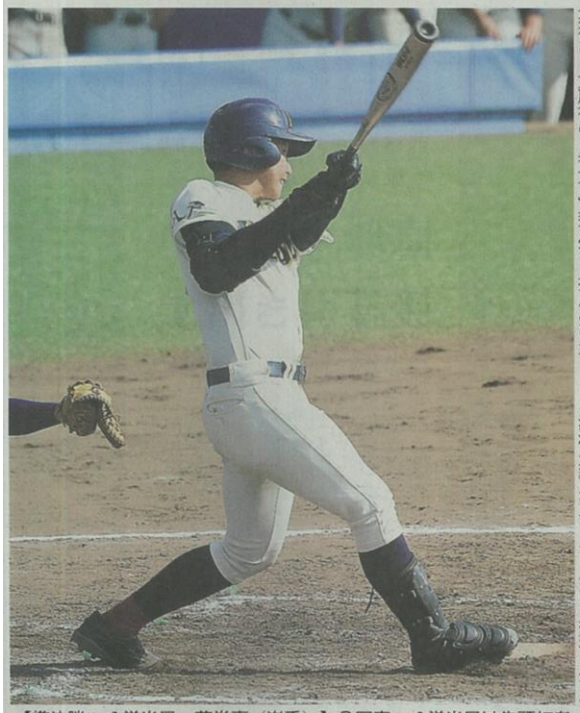
▽準決勝（岩手）

盛岡大付	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
古川（宮城）	0	0	0	4	0	0	1	0	1	6

古川（宮城）（六回裏に七点コールドゲーム）
（盛）阿部―島上
（古）千坂―高橋寛

【八学光星】
	打	安	点	振	球	失
④藤原	3	1	0	0	1	0
⑧佐藤	4	2	1	0	0	0
⑦伊藤	3	1	0	0	0	0
⑤武田	3	0	0	1	0	0
⑨下山	3	1	1	0	0	0
①後藤	3	0	0	1	0	0
②太山	3	1	1	0	0	0
③崎原	3	1	0	0	0	0
⑥波山	3	1	0	0	0	0
計	29	7	3	2	1	0

【花巻東】
	打	安	点	振	球	失
⑧川村	3	0	0	1	0	0
⑨森	3	0	0	1	0	0
⑤清水	3	0	0	1	0	0
③中村	3	1	0	0	0	0
⑦山崎	3	0	0	1	0	0
②西舘	3	1	0	0	0	0
⑥武田	3	0	0	1	0	0
④向中	3	1	0	0	0	0
①中森	3	0	0	1	0	0
計	27	3	0	6	0	0



【準決勝・八学光星―花巻東（岩手）】３回表、八学光星は先頭打者・太山の右越え本塁打で１―０と先制する＝秋田市こまちスタジアム

被安打9、6奪三振、3失点で完投した八学光星の主戦・後藤

きょうの試合

（左のチームが一塁側）

◇決勝
▷こまちスタジアム
盛岡大付―八学光星（10・0）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです